

《未来像》

低炭素\*の京都をつくる

急速な地球温暖化の進行を止めるために、人為的な炭素ガス排出量の削減、化石燃料に依存しない交通、森林等の自然環境を守り、まち全体を持続可能な低炭素なまちにする。  
\*温室効果ガスの排出が少ない

京都の歴史・文化を継承・発展させるまちづくりを進める

京都が有する歴史、景観や文化、伝統が息づく生き方、暮らし方などの都市特性を活かして、都市格を磨き、市民が一層誇りを持てるまちにする。

京都型経済モデルをつくる

「低炭素社会を先導する産業」、「デザイン、味、水等、京都の伝統文化を活かした産業」、「観光産業」などが連鎖する新しい京都型経済モデルをつくる。

人材を育てる

社会全体で子ども、若者を育て、国際的ビジネスリーダーやオピニオンリーダー、地域の担い手など、様々な分野で未来を担う人材が育つまちにする。

協力社会をつくる

色々と参加できる仕組みが整い、みんなが無理なく少しずつ努力することで、市民参加を多面的に高め、自律的な地域コミュニティを育み、すべての人々が共に尊厳を認め合い、支えあう安心・安全なまちにする。

論点1 重点戦略の定義

- ① 未来像を実現するために、特に優先的に取り組むべき政策
- ② 「京都らしさ、独自性」といった都市特性や強みを生かす政策
- ③ 行政だけではなく、市民や企業と「共汗」して推進する政策
- ④ 単一分野だけではなく、複数の行政分野を「融合」した政策

論点2 重点戦略の検討

《重点戦略》（案）

環境共生のまちづくりを進める戦略

産学公の連携により生み出した低炭素社会を先導する技術・産業、京都特有の環境にやさしいライフスタイルやすまい方を生かし、ごみ減量や再資源化を進め、自然との共生による持続可能な環境調和型のまちづくりを進める。

人と公共交通を優先する「歩くまち・京都」戦略

地下鉄を軸に、公共交通の利便性を向上させるとともに、歩く魅力にあふれるまちをつくり、持続可能な脱「クルマ中心」社会のモデル都市の形成を目指して、歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換を図る。

歴史・文化を活かした景観まちづくりを進める戦略

京都の有する歴史・文化が息づく建物、庭園、風景などを活かし、歴史的な重層性を実感できる景観資産の保全・再生・創造や、自然環境と文化的資産が一体となった低炭素景観の創造による景観まちづくりを進める。

公民協働による活力と個性に満ちた拠点を創出する戦略

人口減少社会においても持続可能な都市構造への円滑な移行を実現するために、地下鉄をまちづくりに活かすという視点で、地下鉄の各駅をはじめとする公共交通の結節点に公民協働による多彩な地域拠点づくりを行うなど、それぞれの地域の活性化や個性に磨きをかけるまちづくりを進める。

観光スタイルと観光都市としての質を高める戦略

あらゆる分野の取組の融合により、滞在・宿泊型、歩く観光、ほんものどふれあう観光、市民のおもてなしなど、旅の本質を追求できる質の高い、世界が共感する観光都市を実現し、京都の都市特性を生かした世界に冠たる国際MICE都市へと飛躍する。

ソフトパワーを活かして新産業を創造する戦略

加速するグローバル化への対応を視野に入れて、国内における他圏域との連携を深めながら、京都が持つコンテンツ、デザインをはじめとするソフトパワー、産学公の人的ネットワーク、中小企業の高い技術力を活用し、環境・健康・観光などの分野において、付加価値の高い新産業を創造する。

未来の担い手を育成する戦略

大学のまち・京都の強みをはじめ、京都の「地域力」、「文化力」、「歴史力」を活かし、国際的ビジネスや地域づくりなど様々な分野で次世代の担い手となる人材を育成する。

先進的な子育て支援や教育など、子育てしやすいまちをつくる戦略

地域力を生かした子育て支援サービスや医療体制の拡充、仕事と家庭が調和し男女が共に子どもを育てる社会の構築、京都独自の先進的な教育環境の整備などにより、子どもを安心して産み育てることのできるまちづくりを進める。

地域コミュニティを再生する戦略

京都の最大の社会資本である地域コミュニティの活性化を図り、自主・自立的な地域経営を行政が側面から支援することで、社会的なつながりと地域における様々な居場所をつくり、安心して暮らせる地域づくりを進める。

少子・長寿社会における世代間交流を進める戦略

子どもから高齢者まで多世代が日常的に交流し、それぞれの社会的な役割を果たすことで、市民や地域ぐるみによる豊かな子育て、高齢者や障害のある市民の福祉の充実を進め、全ての人々が尊厳を持ち、生きがいを実感できるまちづくりを進める。